

## ■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井 博文



### ■ かわいお話です

10月30日に山口東京理科大学で、本市主催の市民環境フォーラムが開催されました。ご存じのとおり「フォーラム」とは、聴衆も参加する今はやりの公開討論会のことです。前半を講演などに充てるのが一般的ですが、今回も国内トップクラスの3人の学者が、それぞれ異なった角度から環境問題を話してくれました。講演の内容はレベルが高ただけでなく分かり易く有益で、会場からは「このようなフォーラムなら、ぜひ他市と共同で開催してほしい。県でも企画したらどうか。」という声も聞かれました。

ある学者の講演には、かわいお話がありました。それは、「この地球から青空も星空もなくなるかもしれない。」というものです。地表の気温が少しずつ上がっていることは、みなさんご存じのとおりです。氷河や北極・南極の氷がドンドン溶けています。気象が異常になり、これまでに経験したことのない大規模な台風、ゲリラ豪雨や熱波が世界の各地を頻りに襲っています。異常な雨量が相次いで記録されています。これらは地球温暖化と連動しており、このままで行くと最悪の場合、人類はあと100年もたないかもしれないともいわれています。これに対処する方法として、地球全体を一種の幕で覆い温暖化した地球の熱を冷やす方法とか、地球の軌道を変更し火星の軌道に近づけることにより最悪の事態を回避する…。一見奇想天外と思えるこの種の研究が、世界では巨額の資金を投じて続けられています。仮に地球全体が一種の幕で覆われると、私たちは青空も星空も見ることがで

きなくなるそうです。

みなさん、いかがですか。日本は昨年、2020年までに、1990年比で温室効果ガスを25パーセント削減することを国際社会に公約しました。浪費に慣れた私たちの生活スタイルを、もっともって見直すべき時期に来ているように思います。市の出前講座の方もどうぞご利用ください。

### ■ トイレの洋式化が進んでいます

「山陽オート」は合併当時多額の赤字に苦しんでいましたが、平成19年度からは経営を民間に委託し、毎年、売上げの0.8パーセントまたは1億1000万円を委託先から受け取っています。しかし、まだ約8億4000万円の累積赤字が残っているため、必要な経費を差し引いた残額の全部を借金の返済に充てていましたが、これでは「地域福祉の向上に寄与する」との公営ギャンブルなりの制度の趣旨が生かされません。そこで、昨年から年約1000万円を限度に、全ての公共施設（公民館など）のトイレの洋式化（男女別に一つずつ）に取り組むことにしました。トイレでしゃがむと苦痛を感じる高齢者が増えたことや、小野田地区の市民にも「山陽オート」の赤字返済を理解してほしい、などの理由からです。

財源に限りがあるため牛の歩みに似た進捗状況ですが、全市の公共施設に洋式トイレが実現する日も、そう遠い先のことではありません。

対話の日

12月16日(木) 19:00 ~  
中村自治会館